

ピースアクション 2018 & 原水禁世界大会参加報告会

戦争も核兵器もない平和な未来を

～ヒバクシャの想いを継承し、日本・世界に広げよう～

去る10月5日(金)10:30より、ラコパふくしま5F「A・B会議室」において、「ユニセフへいわ委員会」主催により、県内各会員生協から、34名の参加で開催されました。

司会進行役の根本英子理事(ユニセフへいわ委員会担当)より、「ピースアクションは、被爆の実相や平和の大切さについて学ぶとともに、次の世代への継承と核兵器廃絶に向けた取り組みを共有することを目的に、広島・長崎両県生協連と日本生協連の共催で開催されています。2018年は、全国から延べ3,410人が参加しました。



県内からは、コープふくしまから子どもさん2名を含む6名、コープあいづから2名、パルシステム福島から子どもさん1名を含む3名、事務局の計12名が、参加されています。

広島では「ヒロシマの心を次世代のあなたへ～知って、感じて、動き出そう～」をテーマに、長崎では「戦争も核兵器もない平和な未来を～ヒバクシャの想いを継承し、日本・世界に広げよう～」をテーマに開催されました。

長崎市田上富久市長による『長崎平和宣言』で、特に印象的であったのが、『東日本大震災の原発事故から7年が経過した今も、放射線の影響は福島の皆さんを苦しめ続けています。長崎は、復興に向け努力されている福島の皆さんを引き続き応援していきます。』と福島の原発事故にも触れていただいたことです。

また、原水爆禁止2018世界大会は、「被爆者の声を全世界にひろげ、核兵器の禁止から、廃絶へと前進するとき。2018原水爆禁止世界大会は、日本と世界の反核平和運動、国連や諸国政府の代表を広く結集し、これからの展望を示す大会となろうとしている」ということで、広島・長崎の両県で開催され、今年も県内の医療生協から、たくさんの方々が参加されています。

本日は、こうした平和行動に参加された方々を代表し、何人かの方に、報告をしていただきます。

ヒロシマ、ナガサキでは、子ども平和会議が開催され、「戦争や核兵器の使用など、争いごとをなくすために私たちができること」について、子どもたちが真剣に話し合い、自分たちができることとして、「原爆の歴史や核兵器の恐ろしさについて学び、それを踏まえた上で、平和活動に積極的に参加すること」「知識を深め、あらゆる手段を活用して、身近な人や世界に発信すること」といった内容を含めた平和アピールが報告されました。

今日、参加者から聞いた報告を、是非皆さんも、身近な人たちにお話しをして、核兵

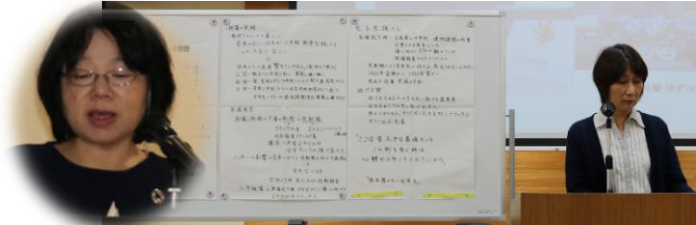
器廃絶に向けた行動に結び付けてください。」といった開会の挨拶があり、報告会が開始されました。

ピースアクション in ナガサキ



ピースアクション in ナガサキに参加された影山祐子さん(パルシステム福島)、渡部光恵さんと長嶺洋子さん(コープあいづ)からそれぞれ報告がされ、最後に参加者全員で、福島市が生んだ偉大な作曲家古関祐而作曲の「長崎の鐘」を歌いました。

ピースアクション in ヒロシマ



ピースアクション in ヒロシマに参加された野崎玲子さん・野崎久美子さん・佐藤佳織さん・八木沢美子さん(いずれもコープふくしま)から、紙芝居やボード、パワーポイントを使った報告がございました。

原水爆原水爆禁止世界大会

最後に福島医療生協の大塚健一さんから、原水爆禁止世界大会の報告をお聞きしました。

終了後は、昼食休憩を挟み、「ノーベル平和賞 ICAN 運営委員 川崎 哲さん講演会」を開催しました。

